

左の一編は聖市に於て發行せらる、荀詒新聞「ガゼット・マス紙所載の論文を逐字譯したものなり」(記者)

世界大戦日本(上)

▲最近の貿易

ナントス港に碇泊せる日本艦隊の優越俊なる將卒の聖市訪問は、亞細亞最大の軍國たり世界有數の強國たる日本が、最近數年間に遂げ得たる驚嘆すべき發達に關し興味ある論文を草するに絶好の機會なりと思惟すボーリマス條約に於て償金を得る能はざりし日本は、一九〇六年より一九一三年迄其政治的膨脹と商工業上及財政上の活動に努力せしに拘らず其經濟的位置を政治的勢力と同一水線上に置く能はざりき、國債は増加し、租稅の増徴は一億五千萬圓に達し、而して多大の犠牲を拂ひて尙

の目的を達するに最も有用にして且つ有効なる手段の一つであつて、別けて日本の信用を傷けんとして日本に不利の通信を爲す者諸所に存在する。今日に於ては、日本は此の際進んで南米と新聞通信の道を開き、之によつて他の誤報を正すと共に、積極的に日本のプロバガンダを爲すの要がある、適ま此の時に方り我が國が艦隊の來つて、南米人特に伯國人に好印象を與へて呉れたのであるからこそ之を機會として新聞通信及び外交機関に關し新機軸を出すことを我が國が政家に特に懇請する次第である。

世界と日本

今年もはや十二月となり餘す處僅かに二
なりました
新年號には例によつて「名刺交換欄」を設
ミルレースとして年頭祝賀の交換をする
方は御姓名に料金を添へ本月二十五日迄
みを願ひます
尙又營業者諸君にして特に新年號に廣告
裁等御明記の上至急御申込みを願ひます
一、半段十五ミルレースの割であります
料金は凡て金額に限り成るべくコンバロ
ない土地の方は郵券代用で差支へあります
一切手は百レース券で御送附を願ひます

伯刺西爾時報社

ら云へだ儘かに成功であつたには相違ないが、海軍は主として海に關する任務を帯びるだけに、寄航する場所も港灣に限られ、從つて、巧妙な外交的手腕を施す場所も亦或る局一部に限られるから、折角の大々的艦隊外交も、一般的に且つ永久的に望み得ないのは止を得ない次第である。茲に於て吾人は此の荒砥に懸けられたる艦隊外交を、更に一般的に且つは、何れの國もに由つて消極的に除き、或は防

理の重望を有するの
に、なる有縁家にして到
以て人心を征服し
する同情と好感を
ときは、其の最も著し
人は自然日本を誤解し、日本は悪い
國なり云ふ前提の下に、謂ゆる食
恐れがある、若し嫌ふことになるの
深き注意を拂ひ、之るも、日本に對し信頼景慕の情を生
には相手國民の誤解せざるは確かである。
き、積極的には自國交の大臣目、新聞通言によつて國内内了解
するに國民的相互了解に當今外國に

せば電氣工業の如き一九〇四年に其數僅かに九十一會社、資本金一千八百二十萬圓に過ぎざりしものが、一九一三年には三百八十五會社、資本金三億七千八百萬圓となれり、凡ての工業に關する會社數一九〇四年に二千三百八十四、資本金一億六千萬戰時中

新年號に就き謹告

仙都雨晴

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Fagundes N. 16
Caixa Postal H
Tele. Central, 5698
S. Paulo, Brazil
Proprietário e editor
Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno 15\$00
,, Semestre 8\$00
,, Mez 1\$50
,, Semana \$50

所概ね日本人排斥問題にあらざれば、日本の支那、西伯利に對する侵はば、日本の行動ならざるはなしである。其他東京電報として掲載せらるゝものも、直接日本又は日本の友人から出るもののは殆どなく、曰く日本財界の、日本人の本心は、日本近年の海外貿易は著るしき進歩を示し、一九〇四年に七億圓なりもの、十年後の一九一四年には十億圓に達したり

二 し 展 ざ 外
一一一九一九年 示すれ

◆自由の本家英國も愛蘭獨立黨の陰謀警戒のためには餘程頭を痛ましてるに見え此程公衆の議會傍聴を禁止するに至つた背に腹は代られぬ乎希臘王黨頻りに反對黨に威迫を加へて、直攻に付く事も珍らじ毛色

圓のもの、一九一三年には會社數千九百六十一、資本金八億一千四三十萬四千圓に増加せり、而も此歩に拘らず日本は其豫定の行動を經濟的發展に必要な海陸軍備整ふるに困難したり。這次大戰は實に待ち焦れたる刺戟便宜と機會を日本に與へたり、米以外の西洋諸國の輸出は著しく減少を來たしたるを以て、日本は代りて支那、印度、濠洲の市場獨占し、尙先きに輸出國たりし歐及兩米洲の市場へも其羽翼を延ば

年	四百進執をとどき北洲の工場物資輸入外に繩絲及	一九三九年	一九三九年	一九三九年	一九三九年
ましき	したて速く等も亦造船業をさうめんを帶して命を	一九三九年	一九三九年	一九三九年	一九三九年
一	しげたるる洲を工場物資輸入外に繩絲及	一九三九年	一九三九年	一九三九年	一九三九年
	四百進執をとどき北洲の工場物資輸入外に繩絲及	一九三九年	一九三九年	一九三九年	一九三九年

三十餘日で新年を迎へる事に十餘日で新年を迎へる事に
名刺形廣告一つを伯爵に事にしますから、御希望に本社へ到着する様御申す
け名刺形廣告一つを伯爵に事にしますから、御希望に本社へ到着する様御申す
料金は一段二十五ミル、料金は一段二十五ミル、
一月に願ひます、郵便局の料金は一段二十五ミル、
せんが其場合は一割増で

◆自由の本家英國も愛蘭獨立黨の陰謀警戒のためには餘程頭を悩ましてるに見え此程公衆の議會傍聴を禁止するに至つた背に腹は代られぬ乎◆希臘王黨頻りに反對黨に壓迫を加へ之が追放に日もこれ足ら罷免せられたる軍人八將官千二百佐尉官に及び政界不穩商業取引全く中止す◆王黨復活の結果前首相ヴニゼロスの命に依り取り除けられたる公爵に於ける前王コンスタンチノ陛下の肖像再びもとの所に復歸と決定す◆路透電報に依れば露過激派は土耳古國民黨と提携して聯合側に當るの策を樹て其同盟條約土國首府コンスタンチノーブルにて調印せらるこ

心と己れ

說苑 ◇

今日此頃の堪へ難い暑い日を其れ程に感せぬ顔で私は或家の内で算盤を弾いて居るそれでもシャツ一枚にならなければ堪へきれぬ溶け入る様な此暑さに表の方では多くの人が太陽を背に受け汗を拭き／＼働いて居る、私は地區に居る兄を思ひ出した其時私は兄に對する感謝通りして言ひ知れぬ一種の悲哀を感じた。

暑さに苦しむと鍼の柄を握つて居る兄や兄嫁を見捨て私は知らぬ顔して居る様にも思ふた。何だか罪悪感をもつても居る様な氣もした私は算盤を彈きながら心中で済まぬと思ふと勘定は折衷をした、ご、心の奥で計してください誰かゞ叫んだ様である。

十有餘年の歳月を人知れぬ心の悩みに疲れかけた兄の心身。人並はずれた細き身體にならひもせぬ鍼を持ちまうか、然し兄は兄自身の食を得むが爲め私も又私自身の糧を得むが爲め止むを得ぬいか仕方がないでないけれども

私は此暑き日の一週間を家にかへつて兄と共に働くと決心した切めては良心の呵責よりのがれむ爲めに。私こそも食を求めなければならぬけれども自分の糧自分で得られる様に誰が育てゝ呉れたのだ私は糧を忘るゝとも其人を忘れてはならぬ其人を忘るゝ共其心を忘れてはならぬ。私が暑い日の一週間を家にかへつたて何が出来る。それよりも涼しい日に手傳へは仕事にも時間にも経済に行きたいのだ糧を求めるもそれが爲のである。

私は情にさらわれて利害の眼の見ぬのかも知れぬけれども唯々生きていのうだ兄の苦しむ時共に苦しみたいのである。

め算盤をはじくもそれが爲め暑さに苦しむも身體をきたへるも戦ふ爲めの準備である。

私は私自身の生と死が始終戦つて民様にいつかは社會と云ふ大敵と戰はねばならぬ事を信じて居る其時なぞは如何なる大難來る共風の前の魔なるべしか然しながらそれは現世にてか來世にてか今の自分には覺束なき事の限りである。

金の指輪金の劍(三)

もし貴君がさう云ふお考へなら、私もお助け申しますよ。さア愈々幸福が來て、我々も家へ歸れるかな。
さうすればお母様のお顔を見るこ事が出来るぞ。然し貴君は恐れはしませんか。恐れを感じたが最後、大魔城につくと同時に、貴君は鳥か獸にされてしまふますよ。』

『大丈夫! どんな事があつても僕は恐れはしないよ。僕はたつた一人でこの絶壁のところまで來た位ぢやないか。此の絶壁さへ越すことが出来れば、僕はごんく城の中へ入つて行くよ。』

末吉が勇ましく云ふとハツカ鼠は

*伯國 潤れる血(八)

*情話 クラビニユス事件譚:

▲巴里の仇じ男が思はれて ▲芳 郎

時計は九時、十時すぎにシナジエニヤがせめてもの頼みにして居た終列車の時間もすぎて了つた。

『今日も来ないんだわ……』

自棄に鏡臺の前にあつた花瓶のはなをもぎつて花辦をちぎり捨てた丁度小兒のするやうに……そうして鏡に映るわざわが姿を眺め入つた自分の美しさをもつてしたら如何な男でも——と思ふて居たのが裏切られた様な氣持ちがして、何時なら喜んで見る我が姿のうつる鏡も今日は恐ろしい様な氣がしてながく見て居るに堪へなかつた。

▲日本品は何品にても御注文に應ず
聖市コンデ
サルゼーダス街五一番
大澤醬油取次所 KIDO SHOKAI
Caixa Postal 1466
R. C. Sarzedas St.
S. Paulo

木藤商會

開業廣告

指物師 野島兵太郎

私儀今般左記の人に共同にて指
物并に建築請負業開始致候間各
位諸君益々御引立の程奉希候

聖州ノルテ、サンパウロ線
カタンヅーバ市

小作地提供

一、場所ジユキア線イタニヤエン驛
リオブエナ作其他各種の栽培に
適する土地約六百アルケーレス
を借地に提供します

二、面積は漸次擴張出來ます
レ地料は一アルケール五拾ミル
レース以下です

三、御申込次第何時でも御入地出來
ます

四、詳細は左記宛御照會を願ひます

一、大正八年十二月渡來家族人員四名
組合第十三回移民

二、右者就勤地カクリナ耕地(バウリス
タ線ビラニンガ駅)耕作契約を履行
せざりしのみか同駅に逃亡し同地に
不都合の行爲ありたるものなり同
人現住所御承知の向は匿名にて差支
なき故至急御通知ありたし

大正九年十一月
在サンパウロ

福岡縣久留米市原古賀町二六七番地
家長牛島分
明治廿四年四月一日生

西北館内 佐久田金城太二
Est. Iranhaen
L. Santos-Juquía

旅館 成功館
帝國總領事館
田口洋服店
Rua Conde de Sarzedas, 73
古謝將義
電話セントラル「四五五九」
大澤醬油取次所
大正九年十一月
在サンパウロ

弊店は特に米國最新流行カタロ
グを直接取寄せ最新式流行形を
調製可仕候
電話セントラル「四五五九」

支那全權顧問は聯合通信員に左の如く語れり、支那は山東問題を此會議に於て復活する積りなり、若し今回討議研究されば來年又更に提出すべし、支那は東亞に於ける日本の勢力範囲が聯盟に監督せられん事を要求すべし、山東問題が如何なる形式の下に提出せらるゝか余は正確に之を知らざるも兎に角之を本會議に於て討議する方法を講ずべし、講和條約の條項に依り山東に於て日本に附與せられたる特權に就ては支那は相談に與らす而して之に就ては決して満足せるものに非ず、日本軍隊が駐屯せる山東内地の住民は殆ど全部支那人なり、同地住民は日本人を目するに侵略者を以てせり、支那に對する日本の政策は其の利益となるべき何物をも有せず、山東問題は寧ろ北米で多く利害を共にせるを思ふ、將來の太平洋に於ける商業の發展は自由なる支那の進歩を助くる國の政策に依るべし、吾人は思ふ、國際聯盟は凡ての問題を決するに深甚の注意を拂はざる可らず。

● 聯盟會議に於ける石井氏の演説
(ゼネラル発電)
日本全權石井子爵は聯合會議に於ける演説の中に左の如く述べたり曰く、日本は誠實に國際的義務を履行し其のためには多大の犠牲を拂ふを辭せざりき、國際聯盟が世界和平に一新时期を作る事は吾人の疑はざる所なり、聯盟會議を年一回召集する事はゼネラル東京間の往復に四ヶ月を要する。日本に取て甚だ不便なるを以て會議開催を二年一回に改めん事を提議す。

● 日本移民問題解決近し
北米への日本移民に關する兩國間の協定は多分圓滿に運ぶべしと信せらる。該問題に關する條約文は目下兩國委員に依て起草せられつゝあり、日本は誠實に國際的義務を履行し其のためには多大の犠牲を拂ふを辭せざりき、國際聯盟が世界和平に一新时期を作る事は吾人の疑はざる所なり、聯盟會議を年一回召集する事はゼネラル東京間の往復に四ヶ月を要する。日本に取て甚だ不便なるを以て會議開催を二年一回に改めん事を提議す。

州領統に謁見

北米への日本移民に關する兩國間の協定は多分圓滿に運ぶべしと信せらる。該問題に關する條約文は目下兩國委員に依て起草せられつゝあり、日本は誠實に國際的義務を履行し其のためには多大の犠牲を拂ふを辭せざりき、國際聯盟が世界和平に一新时期を作る事は吾人の疑はざる所なり、聯盟會議を年一回召集する事はゼネラル東京間の往復に四ヶ月を要する。日本に取て甚だ不便なるを以て會議開催を二年一回に改めん事を提議す。

● 舟越司令官
中病令嬢を見舞はん爲二日夜八時頃同所前パリスタ街横断の折マッキン店配達自動車の擦れ違ひ疾走するに遇ふて街上に倒れ負傷したり傷内に繰り込んだ

老體故直ちに同インスチチウトに入院養生中なり。マッキン店自動車運転手は直ちに現場より拘引せらる。

● 米國務卿コルビー氏
華盛頓電報に依れば北米國務卿コルビー氏は昨三日同地發ノルフォクへ向ひ軍艦「フローリダ」に搭乗來伯の由にし歎談ありたり。

● 前州副統領の奇禍
前州副統領カンドド、ロドリゲス氏及び各省長官代表者を始め市長ビン

◎ 東京電報

ト氏、下院議長ローポ氏、上院議員

● 司令官一行

前中は箇様なことで眼の姫はある程忙しがしかつた、午後は双方共閑となりの歓迎の辭があつたが之れが終る

しめて後藤田總領事の誠意を込めて

掛け十時に錨を收めて歓迎團の見送り船に見送られつゝ港口に航進した、

持の良い軟風に胸を開きつゝ互ひに

「帝國海軍萬歳」を三唱し爲めに天地

悲しさは何ぞ云ひ得ない心持では

あるが願へば艦隊の來伯は吾々在留

司令官を中心として舟越司令官一行に非常なる好

運は兩國の親善を濃厚ならしむる上

てリベイロン方面に於ける珈琲園視

察に赴かれたることは既報の如くな

り此處が好いと云ふよりは全體が偉

胞の共通の感じである

於て懐かしい國旗の下に帝國の軍人

禮服に胸間眩きばかりに勳章を佩し

あるから之をせてもの感めとして

に大なる成功であつた中にも聖市の人感を興へ司令官の如きは『何處が良

い』とは何人の頭腦にも浮ぶ在外同

日本人には珍らしい堂々たる大艦を

も動くの光景を呈した

行義正しく直立し莊重なる言を以て

實に懲懃を極めたる答辭を爲したる

の一つである、船手、漫間の兩艦並に

力すべきは吾々の故國に對する務め

乗組員一同の航海幸に安全なれ

▲最後に舟越司令官は金筋入の通常

民に取つて多大な利益を與へたので

▲船越司令官は金筋入の通常

